

授業概要

中学校ならびに高等学校の教育課程（カリキュラム）について、その意義と目的について理解し、教育課程を編成・実施・評価・改善するための基本的な視点と実践的な力量の基礎を身につけることを目的とする。学校の教育課程の基準である学習指導要領の中心的な内容について歴史の変遷をふまえながら、それを支える考え方や関連する基礎的な知識・理論を理解し、今後、教育改革の諸動向や地域の実態をふまえ、学校の実情に即した教育課程を編成できるような資質能力の形成を目指す。

授業計画

第 1 回	第1回：オリエンテーション、学校教育における教育課程の意義と目的
第 2 回	小学校での「学び」から中高校での「学び」
第 3 回	教育課程に関する法規と学習指導要領（幼稚園教育要領を含む）の意義
第 4 回	教育課程の構成要素（scope 学びの範囲と sequence 学びの順序性）
第 5 回	学習指導要領の内容とその構成（小・中・高等学校・特別支援学校の各教育課程）
第 6 回	カリキュラム改革の歴史
第 7 回	我が国の教育制度の変遷と教育課程、学力観
第 8 回	発達理解と教育課程の編成
第 9 回	各教科、領域、総合的な学習等の固有な目標と指導計画
第 10 回	教材、教具、教科用図書役割
第 11 回	新しい学力観（キー・コンピテンシーや 21 世紀型スキル等）の台頭と我が国の子ども実情（PISA や TIMSS 調査の結果をふまえて）
第 12 回	各学校において教育課程を編成するために
第 13 回	教育課程の評価と改善、学校評価制度、カリキュラム・マネジメント
第 14 回	学校・家庭・地域との連携、潜在的カリキュラム
第 15 回	初任者のクラス担任として学校教育目標から教育課程を考える
第 16 回	定期試験

到達目標

- 1) 学校における教育課程の位置付けやその機能的役割について例を挙げて説明できる。
- 2) わが国の教育課程の変遷を説明できると共に、近年の諸外国の動向を事例を挙げて説明できる。
- 3) 学校において教育課程を編成・実施・評価・改善するための基本的な視点を事例を挙げて解説できる。

履修上の注意

- 1) 私的な理由による遅刻の場合には、入室を認めない。
- 2) 毎回、シャトルカード（大福帳）に記入が求められる。
- 3) 2/3以上の出席を要す。

予習・復習

- 1) 新聞や文部科学省のHPを定期的に参照し、我が国や諸外国の教育改革の動向について、日頃から情報収集を行っておくこと。
- 2) 毎回、次回に向けて小課題が出されるので、次時まで確実にそれを行ってこよう。

評価方法

2本のレポート(30%)と、最終に筆記試験(50%)を課す。また、毎時間、授業内容に関するコメント(10%)を書かせる。講義中の演習や作業への参加度(10%)も加味する。

テキスト

- 田中耕治他(2011)『新しい時代の教育課程 [第4版]』有斐閣編
 文部科学省(2018)『中学校学習指導要領〈平成29年告示〉解説総則編』, 東山書房
 文部科学省(2016)『高等学校学習指導要領〈平成30年告示〉解説総則編』(新刊が出版されるはずである)